



**2019年度 年主題「ことばに満たされて～ひびきあう」**

**1・2歳児 2月主題「広がって」**  
月のねがい  
◎自然を通して神様の御業を知る  
◎全身を動かし、手や指を十分に使って遊ぶ  
◎異年齢の子どもたちに関心を持つ

**3・4・5歳児 2月主題「協力する」**  
月のねがい  
◎季節の移り変わりから自然の不思議さを感じ、いつもお守り下さる神様の愛を知る  
◎物事に進んで粘り強く取り組む中で、友だちを互いに認め合い信頼関係を深める  
◎遊びや生活の中での知恵や喜びを、互いに伝え合う

**たごたご あがれ～!**

今年は持久走大会が11月に終わっていたため、1月のたごあげ遊びも、各クラスで少し思考をこらして作っていたように思います。年長児が共同で作った大きなポリ袋のたごは、二人で持って速さも合わせて走った時に、風を受けてよく上がるようでした。

- ・ふたりに走る速さを合わせる
- ・たごを持つ手を上げて走る
- ・いきよよく走る

子どもたちは寒いのも忘れて、何回も走り、友だちと交代しながら遊んでいました。風を受けると、たごを持つ手により力が入ります。しっかりと風も感じながら公園の坂道を走って、笑顔と歓喜の声を飛び交わせながら遊んでいた子どもたちでした。

体を使って遊ぶのが楽しい！！  
頭を使って遊ぶのが楽しい！！  
友だちと一緒に遊ぶのが楽しい・・・です。

そんな子どもたちの元気な姿を見、成長を感じ、嬉しかった朝でした。

園長

**今月の聖句 「最も小さい者たちのひとりにしたことは、私にしたのです。」**  
マタイ25:40

19世紀のロシア文豪トルストイが描いた物語に、「靴屋のマルチン」があります。靴屋のマルチンは、妻子に先立たれ、一人寂しく暮らしていました。ある晩、彼は夢の中でキリストの声を聞きます。「明日あなたのところに行くから、待っていて。」次の朝、マルチンは本当にキリストが訪れるだろうかと待ち焦がれながら、行きかう人々に目を向けていました。そして、雪かきに疲れたおじいさんを見つけ温かいお茶をご馳走してあげたり、貧しい母子を見つけ温かくもてなしたり、リンゴを盗んでおばさんに怒られる少年を見つけてはその仲裁に入ったりもしました。けれども結局、キリストは現れませんでした。その夜、マルチンは祈ります。「神様、今日私は人々のために出来る限りの事をしたら、皆喜んでくれて、私も嬉しくなりました。でも神様、今日はどうしておいでにならなかったのですか」と。すると、その時、聞き覚えのあるキリストの声が再び聞こえてきました。「マルチン、私は今日あなたに会いましたよ。雪かきをしていた男の人も、寒さに震えている女の人も赤ちゃんも、リンゴを盗んだ男の子も。それはね、実はみんな私だったのですよ。」そして、聖書に記された言葉が響いてきました。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイ伝25:40)。マルチンは、人に何かを与えることで、彼が最も欲していたこと、自分は独りぼっちなんかじゃないということ、得ることが出来たのです。

協力牧師 池田基宣

**募金のお礼とお知らせ**

先般実施しましたお年玉募金にて32,023円集まりました。貧困対策等に役立てられるよう日本国際餓餓対策機構に送金させていただきます。皆様のご協力を心から感謝申し上げます。

**2月の行事予定**

15日(土)	おゆうぎ会
17日(月)	振替休日(1号)
19日(水)	誕生会(2才以上3月生)
21日(金)	お別れ遠足
25日(火)	シオンの仲間大会
28日(金)	参観日(あい・いるか組)
29日(土)	参観日(ひかり組)

**3月の行事予定**

2日(金)	参観日(くじら)
5日(木)	弁当の日
14日(土)	第62回卒園式 父母の会総会
16日(月)	弁当日
19日(木)	修了式(1号午前保育)
21日(土)	入園準備説明会
30・31日	休園日(新年度準備の為)



私達の身の近におられる足の裏の人たちのおかげで、私たちは毎日平穏な暮らしを送ることができ感謝です。外遊びも楽しみながら繰り返してお稽古をしていきます。乳児から年長児までそれぞれ発達段階と感性の中で、けなげに取り組み姿は美しいものです。終わった後は全部の演目をみながら一緒に表現して楽しみます。この主体的で自由な活動を導くためにおゆうぎ会があると一言でも過言ではないでしょう。暦の上ではもう春。残り少ない三学期をしっかりと味わいながら、思い出がたくさん出来そうですように願っています。

学園長

誰かの役に立つ喜び

大寒が過ぎ去ったのも気づかないまま、立春を迎えようとしています。ほとんど厳しい寒さを感じることもなかった今冬。今から寒波が襲うかもしれないと思いましたが、まもなく訪れる春を思いながら、ぴりつとした空気も楽しみたいと思います。

「ギブ・アンド・テイク」という言葉からは「一つ与えたら一つ見返りを受け取る」というようなメリットで成り立つ冷たいイメージがありますね。でも本当は、ずっと与え続けていたら、本当に必要なタイミングで、素晴らしいギフトが与えられるような「ギブ・アンド・ギブ・アンド……」という「ギブ・アンド・ギブ」なんです。相手から貰う事に執着するのではなく、相手に与える事に意識を向ける事がとても大事なことではないかと、ある本にギブ・アンド・テイクという関係性について書かれています。

「ギブ・アンド・テイク」は真つ先に自分の利益を優先させる人。テイク・カー(aker)は損得のバランスを考える人です。一般的にはどれか一つというのではなく、時と場所によって無意識に使い分けている人が多いのではないのでしょうか。中には生き方そのものがテイク・カーである人もおられます。先日銃撃に遭い亡くなった中村哲医師やスーパーボランティアの尾島春夫氏などはまさにその生き方そのものだと思えます。大上段に構えず、ただ淡々とその生き方で生涯を貫く人です。これらの方々は、ニュースになるような出来事がない限り世に知られることはありません。昨今は「世のため人のため」という言葉は聞かれなくなり、自分だけの生活に直接関係のないことでも、目立たず不満を見せず黙々とされる方に時折折出会います。身内ではない見知らぬ誰かのために役に立ちたいという喜びを持つ。これはなんと尊いことでしょうか。

九五歳まで創作し続けた詩人「坂村真民」氏の一篇の詩を紹介いたします。

貴いのは足の裏である  
貴いのは頭ではなく手でなく足の裏である  
一生人に知られず一生きたない処と接し  
黙々として その務めを果たしてゆく  
足の裏が教えるもの しんみんよ  
足の裏的な仕事をし 足の裏的な人間になれ

自分で考える力を育もう！  
～選ぶ力～  
心理 木口屋恵子

**お父さん・お母さん 編**  
“子どもに考えさせる”を習慣にしよう！

- ① 選ばせよう！  
・「どれを食べる？」  
・「着る？ 着ない？」  
・「何して遊びたい？」  
・「どちらからやる？ 何からやる？」  
・「まだ続ける？ お終いにする？」等
- ② 考えさせる質問をしよう！  
・「どうしたいの？」  
・「どうしてそうしたの？」  
・「どうしたらいいと思う？」  
・「そうしたらどうなるかな？」
- ③ 子どもの“選択”を尊重しよう！

**子ども 編**  
自分で考えて行動できる力＝生きる力へ

- ・“考え方”を覚えることができる
- ・心が動き、感性が豊かになる
- ・“考えること”を楽しむ
- ・責任をもって自ら“選ぶ”
- ・やる気スイッチが入る
- ・自分で考えて行動できる
- ・目標を達成するための力になる
- ・失敗しても乗り越える力が身につく
- ・自分の選択を認めてもらえる経験が自信になり自己肯定感が高まって、幸せを実感できる
- ・賢く、たくましく生きる力が培われていく